

## (1) 予算案の考え方

令和2年度一般会計当初予算は、令和2年第1回市議会定例会において、当初予算案が否決されたことに伴いまして、本予算（通年予算）成立までの「つなぎ予算」として、令和2年4月から6月までの3カ月間の暫定予算を編成し、市民生活に大きな影響が出ないように努めています。

しかし、7月以降も暫定予算でつないでいくといった不安定な財政運営は極力避けなければなりません。その上、今般の新型コロナウイルス感染症対策にも一年を通して対応していかなければなりません。

これらのことから、早急に通年予算である本予算を編成しなければならないと考えます。

しかしながら、5月の市議会臨時会において、提案者である市長に対する不信任が可決され失職したことにより、現在不在となっております。

このような場合の予算編成は、新規事業などの政策的経費を省いた、いわゆる骨格予算を編成するのが常套となっています。これらのことや本市を取り巻く社会情勢などを鑑み、政策的経費を省いた骨格予算を編成することとしました。

具体的には、当初予算案として上程しました予算額192億4千万円の各事業から、新規事業や新市長の判断を仰ぐ必要がある事業は計上を見送り、新型コロナウイルス感染症の影響で中止が決定したイベント等の経費を減額し、そこに新型コロナウイルス感染症対策経費や当初予算編成後に新たに発生した選挙費用やコミュニティ助成事業などの交付が決定した事業を追加したものとなっています。